

地域(場)の伝統知に学び、暮らす ～ムラを開いて、広くつながる社会へ～



自然文化誌研究会

木俣美樹男

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
フェロー、東京学芸大学名誉教授)

表1. 事例の比較

2015-11-14木俣

エコミュージアム		最も美しい村	源流の郷	トランジション・タウン
発祥	いつ	1971	2005	2005
どこで	フランス、ウェッサン島エコミュゼ	フランス	日本、小菅村	イギリス、トットネス
目的・定義	ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた環境と生活様式をあらわす自然・文化財産を総体にして、恒久的な方法で、研究・保存・展示・活用する機能を保障する文化機関である。		日本の源流域は、国土保全や環境保全の最前線に位置しており、河川の流域だけでなく、我が国にとっても非常に重要な地域。会員一同その責任を自覚し、源流域の環境などを保全に務めている、源流の恵を共有する流域の皆さんと一緒に活動していくことが必要。源流地域の重要性を多くの方々に理解していただき、協力が広がるよう「源流白書」を作成し、源流域が存続していけるよう源流基本法の制定などを提案し、その実現に取り組んでいる。	
活動内容	動産・不動産遺産の目録作成、資料保存・展示、催しの企画、コレクションの充実、調査研究・普及、報告、など		源流域の持つ豊かな自然環境の保全に務めるとともに、源流資源の役割と機能を広く国民に訴え、国民的な理解を広げながら、流域のシンボルとして源流域の安定した生活が持続できるように全国の源流の郷が心をつなにして「参加・連携・協働の源流の郷づくり運動」をすいしんすること。	
組織基盤	地方自治体、公的機関、合同組合、アソシアション、財団、市民		町村の行政	市民、市町村の行政
	国際的に広がる		日本国内に限定	国際的に広がる
規模	約90（フランス60、ベルギー3、カナダ1ほか、日本含まず） 1996		22 （2015）	イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、カナダ、フィンランド、ドイツ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スペイン、アイルランド、ラトビア、チリ、ハンガリー、ギリシャ、ノルウェー、南アフリカ、イスラエルなど、公式登録は現在479、うち、日本 3（国内47、2015）
ネットワーク	MINOM 新博物館学のための国際運動 1983		全国源流の郷協議会、全国源流ネットワーク	トランジション・ネットワーク、トランジション・ジャパン
関連研究組織	日本エコミュージアム研究会 1995			
小菅村での活動	エコミュージアム日本村 2000～		提唱	トランジション小菅 2015～

参考文献: 新井重三、1995、実践エコミュージアム入門、牧野出版。大原一興、1999、エコミュージアムへの旅、鹿島出版会。
R. Hopkins. 2008. The Transition Handbook From oil dependency to local resilience. トランジション・ハンドブック―地域レジリエンスで脱石油社会へ―、第三書館。
Guide officiel de l'association. 2012. Les plus beaux villages de France, Selection Reader's Digest.

糸を紡ぎ、布を織りなす～点、線、面へのウェブ・ワークス

美しい布

- むらの多様な伝統的生活文化
- ムラを半開して、むらとむらやまちをつなぐ
- むらやまちを、海外のむらやまちとつなぐ
- ゆるやかな連携づくりをゆったりする

まち（都市）を考える

- 自然や山村（農山漁村）から離れたら、孤立するのは都市です。
- 都市でも、家庭菜園・市民農園を普及して、少しでも食料を自給しましょう。
- 山村（農山漁村）から伝統的な知恵を学び、持続できる社会を創りましょう。

むら(山村)から学ぶ

- 山村(農山漁村)は暮らしの中で、自然と闘い、共存し、共生をしています。
- 山村(農山漁村)は自然に添った伝統的な暮らしの知恵を蓄積しています。
- 山村(農山漁村)は水や森を保全し、食料を生産しています。

みなさまへの提案、「さあ山村」

- 雑穀街道で雑穀のむらをつなぐ。
- ホームガーデン家族小規模自給農耕で、雑穀・野菜などの伝統栽培を維持、郷土食を伝承し、新しい料理を開発する。
- 学びを通じた風土産業、日本村塾を創る。
- 伝統知を学び合うことで、素のままの美しい暮らしSobiboを勧める。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、地域経済をつくる。

雑穀街道

Hirse Straße



山梨県上野原市桐原は古守豊甫さん(健康医学)、近藤正二さん(長寿学)、鷹嘴テルさん(食物学)、光岡知足さん(腸内細菌学)らの予防医学研究により世界保健機関WHOも調査に来たほど、世界に知られた穀菜食による長寿村でした。雑穀が現在まで栽培され続けているので、多くの研究者たちが訪れています。雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域として、上野原市桐原につながる相模川水系の相模原市緑区藤野から多摩川水系の丹波山村までをつなぐ道を、雑穀街道と呼ぶことにします。

小菅村

Sobibo



エコミュージアム
日本村

素のままの美しい暮らし

『明日の小菅村を探る』 持続可能な地域社会の再検討

第36回 環境学習セミナー (2015.11.14)

木俣美樹男
植物と人々の博物館／日本村塾
研究員塾生

藤野

Sobibo

素のままの美しい暮らし

藤野倶楽部の畑から、
シュタイナー学校を望む。

藤野倶楽部

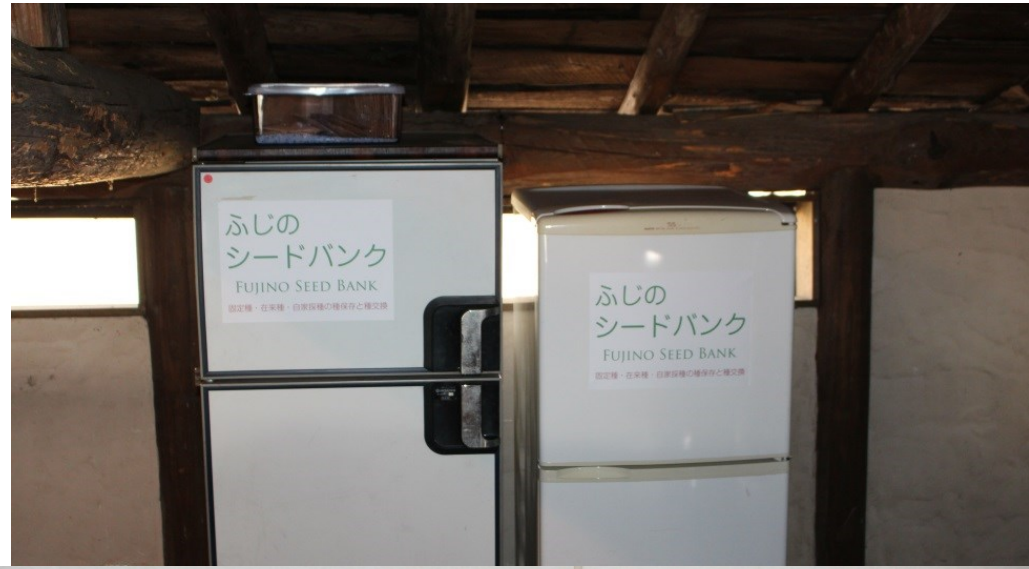


藤野で雑穀を見たのは、山梨県小菅村中組で6種の雑穀を分譲いただいた翌日（1977年1月16日）に、東京方面から陣馬山を超えて、佐野川地区栃谷に下った時です。脱穀が済んだキビとアワのわらが畑にありました。1979年7月21日には5種の雑穀を杉本源十さんから分譲いただきました。この時から藤野が好きになり、住んでみたいと考えていました。

ローカルシードバンクの意義

雑穀や野菜の在来品種は風土に育まれた地域固有の農耕文化基本複合に組み込まれて、このくにの生物文化多様性を豊かにしてきました。地域に適応した在来品種と伝統的利用法を継承すべきです。

上はTT藤野お百姓クラブのシードバンク、下はCBD/COP10での展示と提言。





植物と人々の博物館

Plants and People Museum



展示解説などを希望される方は、メールで、ご連絡ください。

担当: 木俣 研究員村塾生
kimatami@u-gakugei.ac.jp

展示案内

1階：民具展示室、収蔵庫

小菅村と世界の生活用具、雑穀のむらパネル展示

2階：森とむらの図書室

森とむらの会行政調査資料、農林業、民族植物学、環境学習、冒険探検、南アジアなどの関連図書

3階：タイの民具、標本庫

交流先タイの生活用具や遊びの民具、小菅の動・植物標本と世界の雑穀のさく葉標本

展示の基本概念

- 1) エコミュージアム日本村のコア博物館として、世界の植物と人々の関わりの自然文化誌を展示し、現代社会における山村の伝統的知識や生物文化多様性の大切さから、日本と世界における小菅村の重要な位置づけを示します。
- 2) 公民館活動としての展示を、小中学生、地域住民、訪問者ほか多くの方の環境理解に役立つものにする。
- 3) 科学から環境学へと、分析と統合の学びの調和をはかります。
- 4) 直接体験によって五感から第六感に向かう環境学習From five senses to the sixth senseを行います。

森とむらの図書室

本室：小菅村中央公民館内2階

西川文庫；南アジア関連図書。塚原文庫；理科教育、冒険探検。山田文庫；生物学など。森とむらの会；政策提言報告書など。木俣文庫（準備中）；民族植物学、文化人類学、環境教育、科学論、農林業など。そのほか；石川文庫、若林文庫。

分室：相模原市緑区牧野、藤野倶楽部無形の家1階（移動中）

原沢文庫；農林業、植物誌、植物病理学、農業教育など

森とむらの図書室



藤野倶楽部／森とむらの図書室 分室と雑穀街道の展示



日本村塾

Nihonmura College for Environmental
Studies



塾生募集

連絡先: エコミュージアム日本村／
URL: <http://www.milletimplic.net/>
<http://www.ppmusee.org/>

kimatami@u-gakugei.ac.jp

生物の文明への黙示録
植物と人々の博物館

日本村塾

くにを良くする学びの提案

エコミュージアム日本村は伝統文化を身につけた「日本人」になる暮らしの場であり、学びの場でもあります。

森と水、生物多様性を守ってきた山村暮らしの多様な技能、生活文化を都市民に伝えることを、山村の新たな「教育観光産業」として、仕事場を作りましょう。

村民の意思が直接確認できる小さな自治体の試みが日本や世界に良い影響を与えます。志を高く、大きく、山村民と都市民の有志がともにゆっくりと話し合って、素のままの美しい暮らしを提案しましょう。

縁側・囲炉裏端 講座の趣旨

世界中で気候変動が大きくなり、ピークオイルも越えました。

日本では未曾有の大地震・津波の被害復興の努力を重ねていますが、一方で原子力発電所の放射性物質公害が進行しています。

都市民は日本村での環境学習によって、持続可能な地域社会を都市に再生する契機を得ることができます。

私たちが子孫のために地域社会を維持したいのなら、私たちは山村の伝統的知恵を学び、素のままの美しい暮らしにゆっくりと変えていきましょう。

くにの市民が学び

合う、変わる、伝える

文化を再創造、継承する

くにの暮らしを良くする

平安な文明に移行(トランジッション)する

*日本村塾: 学びたい人々だけが集う大学の芽生え。先生なし、授業料なし、入学試験なし、資格取得なし。

健康な食生活の伝統

この山村には縄文時代以前から人々が暮らしてきました。生活は、山菜、キノコ、鳥獣魚などの山の幸と、農耕の恵みに支えられていました。冬は陽当たりの良い山畑でオオムギを、夏は雑穀、イモや野菜を栽培してきました。多様な食材を用いて、季節折々の様々な料理が工夫され、家族を楽しませています。山畑ではコンニャク、溪流にはワサビを植えます。

左は水車で搗精したキビとアワ。右は初夏の大麦の畑（六条ムギとモチムギ）。



健康長寿の桐原モデル

素のままの美しい暮らし *Sobibo*

伝統食に秘められた先人の知恵～食文化の継承

1. 五穀（麦、雑穀）
2. いも食
3. 緑黄色野菜
4. 発酵食
5. 伝統食の中に生きている食品配合の知恵
6. 身土不二、一物全体食（暮らしの場、環境）

（古守豊甫・鷹觜テル 1986、長寿村・短命化の教訓～医と食からみた桐原の六〇年、樹心社）

雑穀栽培講習会 日本村塾

植物と人々の博物館では
雑穀栽培講習会を、伝統
的栽培者の指導で行って
いる。上は、丹波山村の
岡部良雄さん（農家）に播種
法を習っている。下は、日
本村塾自給農耕ゼミで、
オオムギを水車で搗精し
ながら、トランジション・タ
ウン藤野の皆さんが西原
の中川智さん（農家）、白水
智さん（古文書学）らと伝統的
山村農耕について学び合
っている。



このくにの自然と文化

- 自然

亜熱帯から亜寒帯までの多様な地勢

山が多く、約64%が森林

川は短く急流である(「水に流す」)

海に囲まれて、島が多い。

火山が多い(自然災害が多い)

- 文化

極東辺境の地で、海に囲まれ、先行きがない

移入した文化を変容してきた

独自の栽培植物は少ないが、在来品種は多い

縄文土器は今のところ最古である。山住の文化

弥生文化、平場住み

近代ヨーロッパと伝統アジアの調合

最近の災害から何を考えましたか？

自然災害

台風、ゲリラ豪雨、洪水、土砂崩れ

火山噴火、地震、津波

大雪、雪崩、冷害やませ、干ばつ

人為災害

原子力発電所メルトダウン、放射線被ばく

環境汚染、公害病、生ごみの大量廃棄

経済破綻、偽装、職業格差拡大、

戦争、内戦、難民、エネルギーの南北格差

人口増加、過疎高齢化、食糧の南北格差

文化的進化の停滞：多様から画一へ

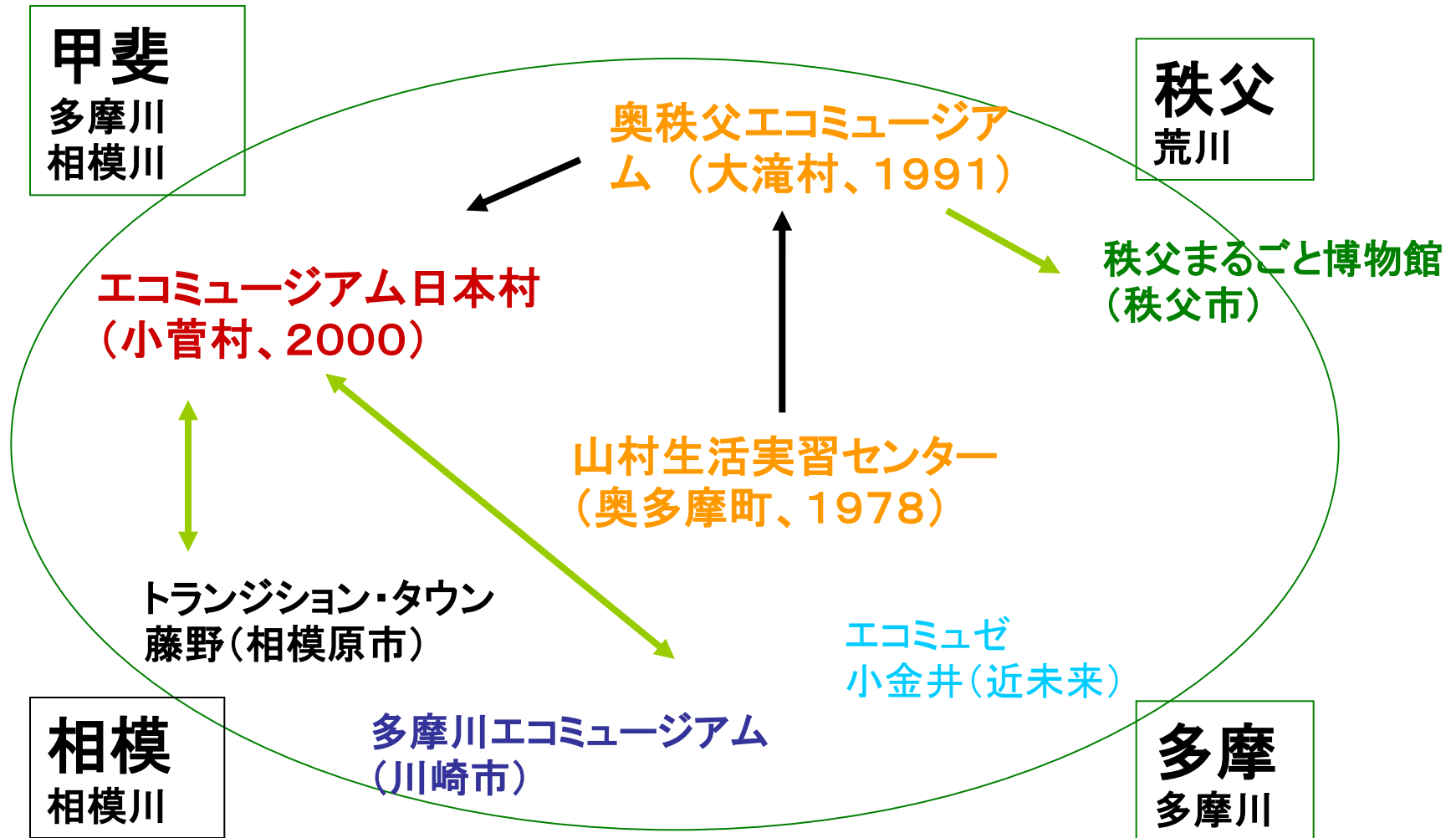
便利への欲望の過剰、読書・思考停止、精神の退行

不条理な暴力、宗教の不寛容、民族文化の軽視

災害から家族や地域を守るには

- 自然に近い山村や食料生産の現場である農漁村の暮らしから、伝統的な知恵を学ぶ
- 災害の歴史から、生存する技能を学び、対応する
- 家族や身近な地域で小規模自給農耕をする
- 家庭や地域で非常時の食料を備蓄する
- 緑地を避難場所として保全する
- 別の場所(国内外)に親戚や友人をつくり、非常時には助け合う
- 「今だけ、金だけ、自分だけ」をよして、心豊かな人々が暮らす地域社会を築く
- 地域社会を半開し、国際的な地域社会のウェブを創る

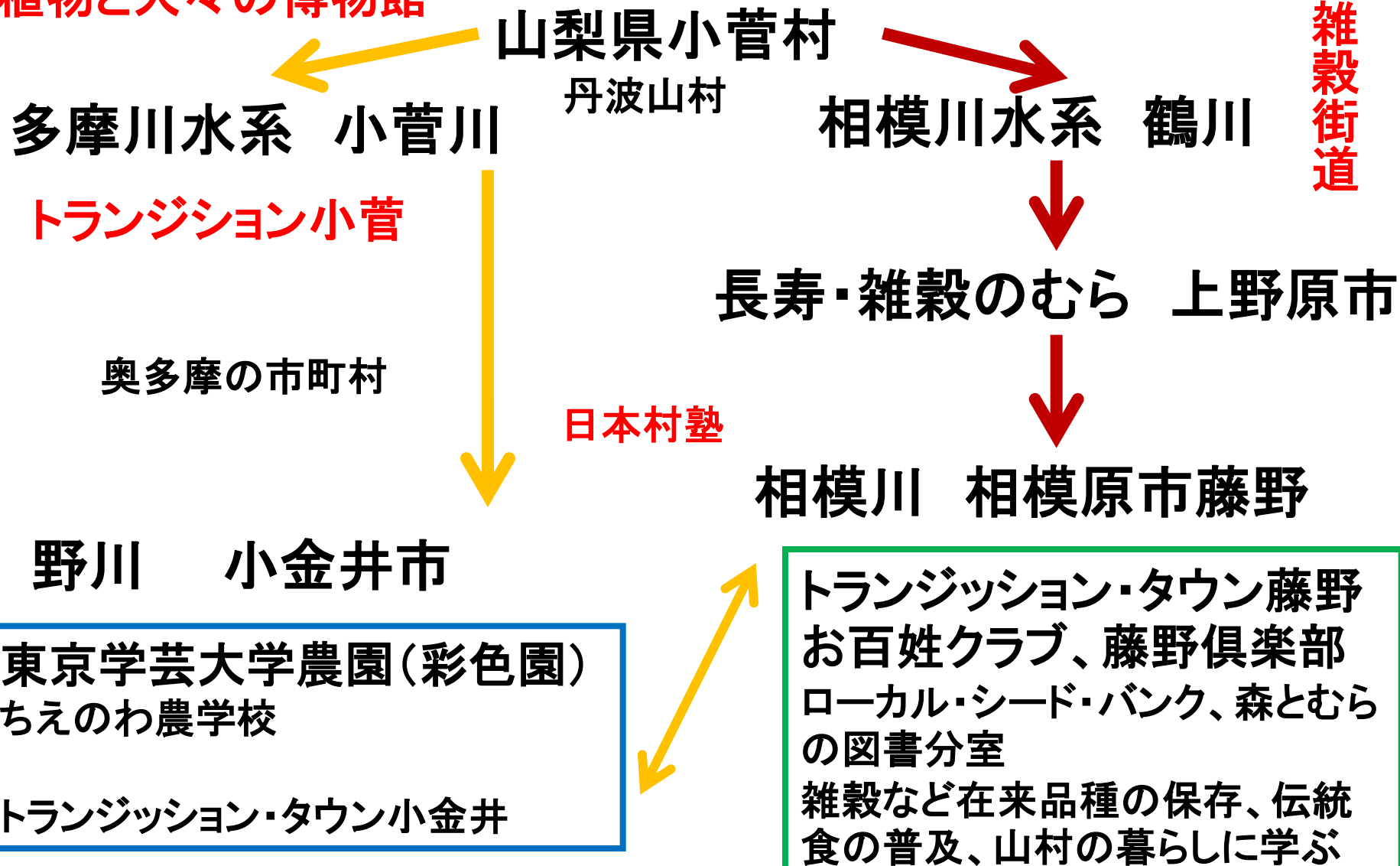
秩父多摩甲斐国立公園／エコミュージアム・ネットワーク



2015年の課題

エコミュージアム日本村

植物と人々の博物館



エコミュージアム 日本村

世界観

自然観、価値観の形成
信仰、アニミズム

自然

環境保全、水源涵養
災害防止、
生物多様性の保存

神社・仏閣

郷土資料館

農業慣行
農耕儀礼
文化財

農山村

集落景観、居住形態、
生活様式、社会関係、
伝統的知恵(食文化など)

野生生物

山・森・川

生物文化

レクリエーション機能、教育機能

里山、農耕地、農家

農林業生産機能
生活文化機能

自然環境保全機能

登山道、林道、生活道

エコミュージアム日本村のサイト

山梨県丹波山村／のめこい湯 R411



山梨県小菅村

上野原市／西原・びりゅう館

／桐原・長寿館

相模原市緑区藤野／藤野倶楽部

連絡先: NPO法人自然文化誌研究会 事務局 黒澤

e-メール npo-inch@wine.plala.or.jp Tel: 0428-87-0165

雑穀街道：道の駅小菅の展示



雑穀研究会

上野原市西原の中川智さん(農家)の畑。6種のイネ科雑穀の他に、センニンコク、エゴマなど、多数の栽培植物在来品種が作られている。

上は2002年、橘礼吉さん(民俗学)、阪本寧男さん(民族植物学)。下は2010年、加藤肇さん(植物病理学)。

同研究会は北都留郡で今までに3回開催されている。



長寿村調査

雑穀街道の村々には高名な研究者が沢山訪れてきた。左下はA.シタラムさん(全インド雑穀改良計画)、橋本光忠さん(農家)、松谷暁子さん(考古学)。右下、木俣美樹男(民族植物学)、古守豊甫さん(医学)、光岡知足さん(腸内細菌学)





雑穀料理

雑穀の郷土料理を大切にしながら、新しい料理を開発している。小菅の湯レストランの和食メニュー(右上)、物産館のクッキー・せんべい、黍発泡酒・ピーボ(右下)、大地の恵み祭で、そばクレープを焼いている(左下)。



献上栗

先の天皇陛下も上野原市の長寿村桐原に行幸された。皇居では新嘗祭のために稲と栗が栽培されているそうで、小菅村は2度、天皇家に栗を献上している。上は船木豊さん(1986)の献上アワ畑。下左は長寿館の行幸碑、下右は献上のための木下善晴さん(2008)の献上アワの調整作業

最高の出来にニッコリ

小菅村の
船木さん

「いい実がつきました。最
高の出来です」十一月二
十三日に県庁で行われる新嘗
(にいなめ)祭に、村で初め
てアワを献穀することになっ
た小菅村の船木(ふなき)豊
さん(村老人クラブ会
長)は刈り取りを目前にし、
のいる家庭で昔を懐かしん
で、白米に混ぜて食べる程
度。船木さんも、今は畑の一
画に百二十平方メートルほど育てる
だけ。
「五月半ばに種まきしてか
ら、虫がついたら大変と毎日
四、五回は畑へ出かけまし
た。いつもなら、あとはほっ
たらかしんですが……」と
語る船木さんは、今月十九
日、山を越え、妻のきみのさ
ん(三十二)と二人で皇居に献穀に
行く。



献穀用のアワの豊かな穂に目を細める船木さん

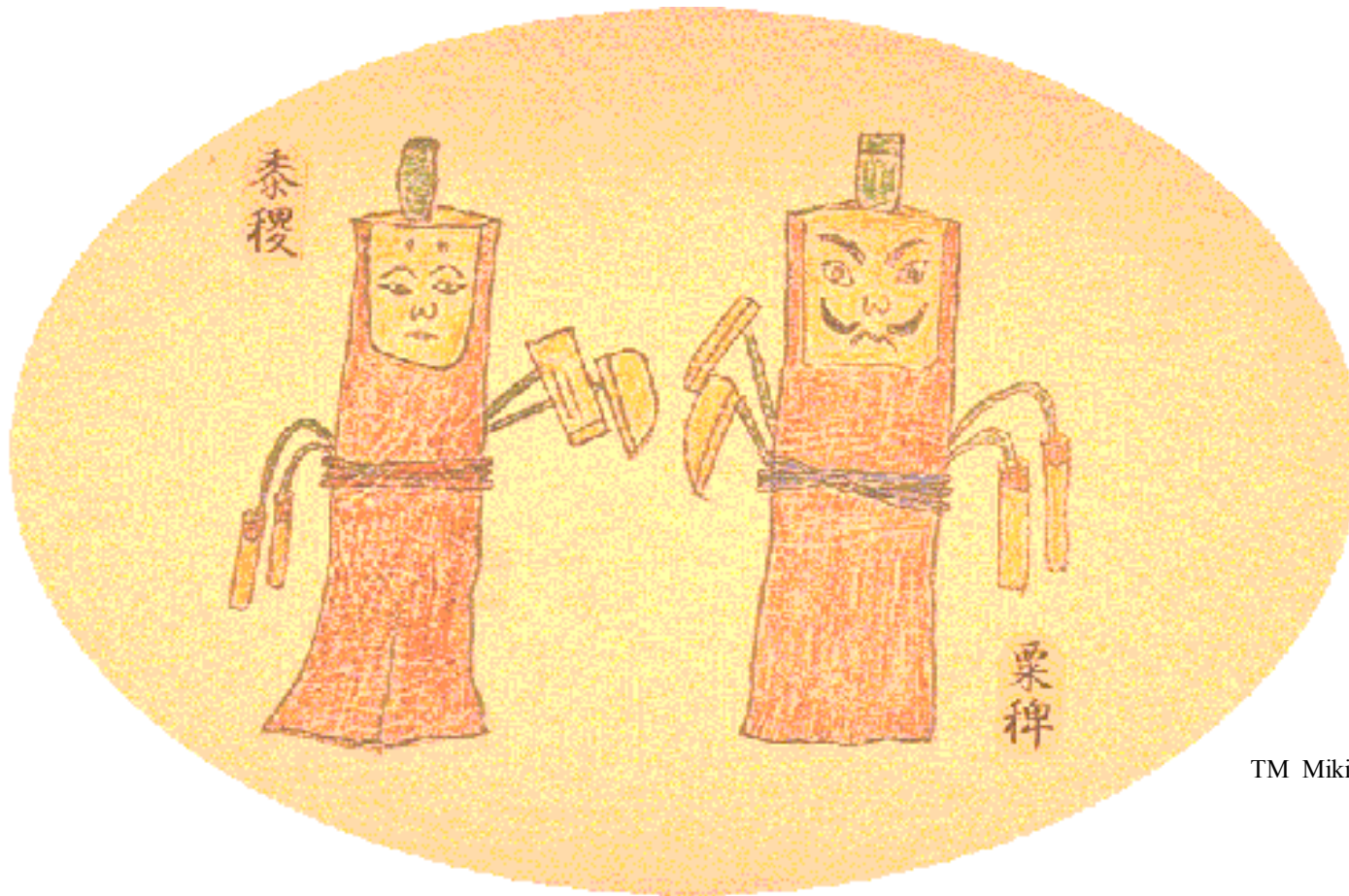
産山梨大教授らの委託調査
告書などをもとに、土砂崩
は、現場の傾斜が急なこと
、地層上、一枚岩の水を通
ない層があることから、降
始めから崩落の起きた時点



県警交通指導課は「事故
原因となるだけでなく、患
アワを占領するなどの生
環境をも破壊している。罫
を契機にこれからも継続し
いく」と話している。
公開交通取り締まり
(3日)
▽速度違反 南甲府、
小笠原、鰺沢、南都、石
和、堀山、都留、富士吉
田、大月
▽はみ出し禁止 鰺沢



ご高覧 ありがとうございます



黍稷農季人

TM Mikio Katsunbou Kimata

この展示のテキスタイルデザインは下記の人々によるもので、東京学芸大学の雑穀展プロジェクトの作品(2007)の一部です。

リーダー本間由佳、＜ヒエ＞野村祥子、＜シコクビエ＞黒政舞、＜アワ＞二階堂なつみ、＜キビ＞駒場麻里、＜モロコシ＞三嶽倫、＜ハトムギ＞三村聡